

# 100-288

## 問題文

66歳男性。高血圧、心房細動とアレルギー性鼻炎のため、内科から下記の薬剤が処方されていた。最近、歩行すると足が痛くなるようになったため、外科を受診したところ、下肢静脈瘤と診断され、1ヶ月後に手術を行うことになった。

(処方1)

ジソピラミドリン酸塩徐放錠 150 mg	1 回 1 錠 (1 日 2 錠)
	1 日 2 回 朝夕食後 14 日分

(処方2)

ワルファリンカリウム錠 1 mg	1 回 2 錠 (1 日 2 錠)
ランソプラゾール口腔内崩壊錠 15 mg	1 回 1 錠 (1 日 1 錠)
ニフェジピン徐放錠 20 mg (24 時間持続)	1 回 1 錠 (1 日 1 錠)
	1 日 1 回 朝食後 14 日分

(処方3)

レボセチリジン塩酸塩錠 5 mg	1 回 1 錠 (1 日 1 錠)
	1 日 1 回 就寝前 14 日分

## 問288

外科の担当医より、手術前のワルファリンの休薬期間とその代替薬について外科病棟担当薬剤師に質問があった。以下の組合せのうち、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- 術前休薬期間 代替薬

- |         |         |
|---------|---------|
| 1. 24時間 | ヘパリン    |
| 2. 24時間 | シロスタゾール |
| 3. 4日   | ヘパリン    |
| 4. 4日   | シロスタゾール |
| 5. 14日  | ヘパリン    |
| 6. 14日  | シロスタゾール |

## 問289

上記の処方薬剤に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- ジソピラミドリン酸塩徐放錠は、不応期を短縮させ房室ブロックに用いる。
- ワルファリンカリウム錠は、血栓形成を抑制し、脳塞の発症を予防する。
- ランソプラゾール口腔内崩壊錠は、併用薬の酸化分解の抑制のため用いる。
- ニフェジピン徐放錠は、労作時狭心症発作時の治療に用いる。
- レボセチリジン塩酸塩錠は、鼻汁分泌を抑制し、アレルギー性鼻炎に用いる。

## 解答

問288：3問289：2, 5

## 解説

## 問288

抗血栓治療中の患者が出血を伴う処置前に休薬し、より作用時間の短いヘパリンに薬を置換する事を、ヘパリン置換といいます。休薬期間は、ワルファリンの場合、3～5日です。従って、術前休薬期間は4日、代替薬はヘパリンが適切です。

以上より、正解は 3 です。

## 問289

選択肢 1 ですが

ジソピラミドは、クラス Ia の抗不整脈薬です。不応期を延長します。短縮では、ありません。また、房室ブロックは注意すべき副作用です。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は、正しい選択肢です。

選択肢 3 ですが

酸化的分解をする薬は併用薬の中にはありません。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが

ニフェジピンは、Ca 拮抗薬です。狭心症の発作時に用いる薬では、ありません。代表的な発作時に使用する薬としては硝酸薬があります。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 は、正しい選択肢です。

以上より、正解は 2,5 です。